

ONE FOR ALL ALL FOR ONE

生活指導通信 第9号 令和3年1月8日(金)

新型コロナウイルスが起こす「差別・偏見」

新型コロナウイルスの感染が拡大しているこのような状況の中で、注意しなければならないことの一つに、新型コロナウイルス感染症を理由とした「いじめ」や「差別・偏見」などの言動があります。

新型コロナウイルス感染症に関連する全国で発生した主な差別・偏見

- ① SNS上に飲食店を名指して、店の従業員が新型コロナウイルスに感染したとのデマを流したとして、名誉棄損の疑いで書類送検
- ② 個人名、住所のほか「コロナ感染女性」と記載した紙を、商業施設や住宅の駐車場に6枚ばらまいたとして、名誉棄損容疑で逮捕
- ③ SNS上に県内に実在する会社名を上げたくて、「県内で初めて確認された感染者の勤務先らしい」との書き込みをし、名誉棄損容疑で逮捕
- ④ SNS上に個人経営の店舗名と場所を記載した上で「店員の家族がコロナに感染している」とウソを書き込み、偽計業務妨害と名誉棄損の疑いで逮捕
- ⑤ 商業施設のレジで「わしコロナやからな」と言って従業員を脅したとして、脅迫容疑で逮捕
- ⑥ 商店街の公衆トイレや壁、看板など9か所に「COVID19」と落書き、建造物損壊と器物損壊容疑で逮捕
- ⑦ 感染者が家族にお願いをして、仕事で着用する服をクリーニング店へ持って行ってもらった。すると、後日、クリーニング店から感染者の職場に、「コロナの洗濯はできません」「洗濯物を取りに来てください」と電話があった。
- ⑧ レストランにおいて、感染者が在籍する大学と同じ大学の「関係者入店遠慮」の貼り紙が貼られていた。
- ⑨ 総合病院において感染者の濃厚接触者ではないスタッフが、子どもの学童保育や保育所の受け入れを断られたり、配偶者が職場からの出勤停止を命じられたりした。
- ⑩ 医療機関職員の子どもの同級生に「お前のお母さん、病院で働いているだろ。菌持ってくるんじゃない」と言われた。

とても残念なことです。感染者やその家族、医療関係者等への不当な偏見や差別、いじめ、SNS等での心無い書き込みが起きています。こうした偏見や差別は人権侵害であり、許されることではありません。

なぜこのようなことが起こるのでしょうか？ 私たちはどうすればいいのでしょうか？

新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！

～負のスパイラルを断ち切るために～

昨年、臨時休校明けの6月に生活指導通信で紹介したものと同じものを再掲します。1,2年生は授業で扱った教材で2回目になりますが、新型コロナウイルス感染症が拡大している今、みんなにとっても大切なことですのでよく読み、もう一度考えてみましょう。

新型コロナウイルスには「3つの感染症」という顔があります。そして3つの感染症はつながっています。

第1の感染症「病気」

感染者との接触でうつることです。感染すると風邪症状や重症化して肺炎を引き起こすことがあります。

第2の感染症「不安と恐れ」

このウイルスは見えません。ワクチンや薬もまだ開発されていません。わからないことが多いため、私たちは強い不安や恐れを感じ、振り回されてしまうことがあります。それらは私たちの心の中でふくらみ、**気づく力・聴く力・自分を支える力**を弱め、瞬間に人から人へ伝染していきます。

第3の感染症「嫌悪・偏見・差別」

不安や恐れは人間の生き延びようとする本能を刺激します。そして、ウイルス感染に関わる人や対象を日常生活から遠ざけたり、差別するなど、**人と人との信頼関係や社会のつながりが壊されてしまいます。**

…なぜ第3の感染症「嫌悪・偏見・差別」が生まれるのか

見えない敵(ウイルス)への**不安**⇒**特定の対象**に見える敵と見なして**嫌悪**の対象とする
⇒嫌悪の対象を**偏見・差別**し、遠ざけることでつかの間の**安心感**が得られる。

このように「特定の人・地域・職業」などに対して「危険」「ばい菌」といったレッテルを貼る心理によって差別や偏見は起こります。

皆さんはウイルスに関する悪い情報ばかりに目が向いたり、何かとウイルスに結び付けて考えたりしていませんか？「あの人が咳してる…コロナなんじゃないか」「あの子、学校欠席しているぞ…コロナかな」「あの地域はコロナが流行っているからあそこものを買うのはやめよう…」このように思い、行動することから「第2、3の感染症」が広がり、左に記載したような差別・偏見が起こります。

では、これらの感染症を防ぐために、私たちはどのような工夫ができるのでしょうか？

☆第1の感染症をふせぐために

一人ひとりが衛生行動を徹底しましょう。

「手洗い」「咳エチケット」「人混みを避ける」

など、ウイルスに立ち向かうための行動を自分のためだけでなく、周りの人のためにもすることが大切。

☆第2の感染症にふりまわされないために

不安や恐れは私たちの

「気づく力」「聴く力」「自分を支える力」

を弱めます。不安や恐れは身を守るために必要な感情ですが、私たちから力を奪い、冷静な対応ができなくなることもあります。

気づく力を高めるために ⇒ まずは自分を見つめてみましょう

- ・ 立ち止まって一息入れる（深呼吸、お茶を飲む）。
- ・ 今の状況を整理してみる。
- ・ 自分自身をいろいろな角度から観察してみる（考え方、気持ち、ふるまいなど）。

聴く力を高めるために ⇒ いつもの自分と違うところはありませんか？

- ・ ウイルスに関する悪い情報ばかりに目が向いていませんか？
- ・ なにかと感染症に結び付けて考えていませんか？
- ・ 趣味の時間や親しい人との交流が減っていませんか？
- ・ 生活習慣が乱れていませんか？普段と変わらず続けられることはありますか？

自分を支える力を高めるために ⇒ 自分の安全や健康のため必要なことを見極め、自ら選択しよう。

- ・ ウイルスに関する情報にさらされるのを制限し、距離を置く時間を作る。
- ・ いつもの生活習慣やペースを保つ。
- ・ 心地よい環境を整える。
- ・ 今自分ができていることを認める。
- ・ 今の状況だからこそできることに取り組んでみる。安心できる相手とつながる。

☆特に SNS には注意をしましょう。新型コロナウイルス感染症が拡大するにつれ、多くの人が書き込みを SNS 上でしています。中には不確かな情報もあります。そのような書き込みに振り回されないようにしましょう。

☆第3の感染症をふせぐために その①

不安をあおることは病気に対する偏見や差別を強めます。

- ・ 「確かな情報」を拡めましょう。
- ・ 差別的な言動に同調しないようにしましょう。

☆感染が拡大していく中で、いつ、どこで、誰が感染をするかわかりません。たとえ自分の身近に感染した人が出たとしても、その人を誹謗中傷するような発言や SNS の投稿をしたり、必要以上に詮索（細かい点まで調べ求める）をして、誰が感染したかを特定しようとしたりする行為は絶対にしてはいけません。感染した人やその家族、周りの人に大きなプレッシャーを与えてしまい、苦しめてしまうこととなります。

☆第3の感染症をふせぐために その②

みなさんそれぞれの場所で感染を拡大しないように頑張っています。

- ・ 小さな子どものいる家庭
- ・ 高齢者
- ・ 治療を受けている人とその家族
- ・ 自宅待機している人
- ・ 医療従事者
- ・ 日常生活を送って社会を支えている人

この事態に対応しているすべての方々を



ねぎらい、敬意

を払いましょう。自分たちのした「新型コロナウイルス感染症に関する軽率な発言や SNS 上での投稿」は上記のような方々のことを思いやっていますか？想像力を豊かに、相手の立場に立って物事を考えるようにしましょう。

また、感染したり濃厚接触者となってしまうと、一定期間は登校することができなくなります。登校しない期間が長くなってしまうと、気持ちが不安になってきて、次に登校する時に大きなエネルギーが必要となります。周りの皆さんにできることは、そういった仲間が安心して登校できる環境をつくることです。遠ざけるようなことは絶対にせず、安心して登校できるように優しく受け入れてください。

このように新型コロナウイルスは3つの感染症という顔をもって、私たちの生活に影響を及ぼします。このウイルスとの戦いは長期戦になるかもしれません。それぞれの立場でできることを行い、みんなが一つになって負のスパイラルを断ち切りましょう！

引用：日本赤十字社HP (http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200326_006124.html)

HP上ではイラスト付きでとってわかりやすくなっていますので、ぜひ見てください。

合言葉は One For All All For One!!

認め合う、助け合う、支え合う